

化粧文化PLUS Volume 10 2017
Cosmetic Culture PLUS, Volume 10

2019年12月 第2版

編集・発行

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
ポーラ文化研究所

〒141-0031

東京都品川区西五反田2-2-10 ポーラ第2五反田ビル1F

電話 03-3494-7250

<https://cosmetic-culture.po-holdings.co.jp>

英訳

駒田牧子

英文校正

ジュリア・ハット

Edited and published by

POLA Research Institute of Beauty & Culture

POLA ORBIS Holdings Inc.

POLA No. 2 Gotanda Bldg. 1F, 2-2-10 Nishi-Gotanda,

Shinagawa-ku, Tokyo 141-0031, Japan

Tel. +81-3-3494-7250

<https://cosmetic-culture.po-holdings.co.jp>

English translation by Makiko Komada

English text reviewed by Julia Hutt

編集・制作・デザイン

NISHI DESIGN.

書

高橋紫雙

印刷

株式会社メディアグラフィックス

図版

MOA 美術館

化粧文化 PLUS

Volume 10

化粧文化 PLUS Volume 10

日本髪

The Beauty of *Nihongami*
– ‘Japanese Hairstyles’

Cosmetic Culture PLUS, Volume 10

POLA RESEARCH INSTITUTE OF BEAUTY & CULTURE



C o n t e n t s

04 日本髪

1 日本髪へのあゆみ
The Advent of *Nihongami*

2 知っておきたい!日本髪の基礎知識
Basic Facts of *Nihongami*

3 基本の髪型とバリエーション
Basic Hairstyles and Their Variations

4 日本髪を彩る髪飾り
Hair Ornaments Adorning the *Nihongami*

5 髪型からわかること
What do Hairstyles Tell us?

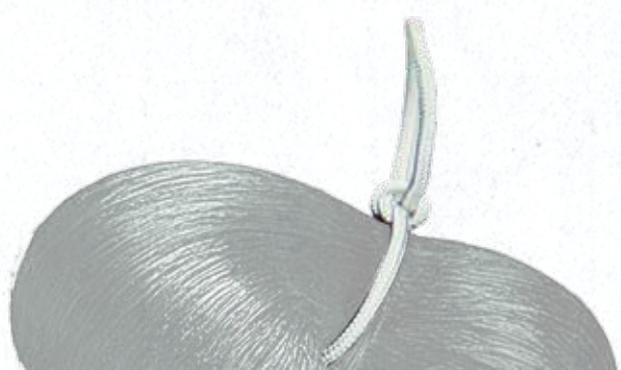
6 最も豪華な日本髪
The Most Lavish *Nihongami*

7 “女髪結い”という仕事
The Profession of ‘*Onna-kamiyui*’ (Female Hairdressers)

8 日本髪の“いま”
Nihongami Culture is Still Alive Today

20 江戸女性の美髪の3つのヒミツ

22 ポーラ文化研究所について



The Beauty of *Nihongami* – ‘Japanese Hairstyles’

Lustrous black hair swept-up into three-dimensional forms and embellished with hair ornaments – *nihongami* (lit. Japanese hair), or traditional Japanese hairstyles for women, epitomize the classic sense of beauty and aesthetics that have taken root in Japan. Why do we still find them beautiful today? In this magazine issue, we examine the attraction of Japanese traditional hairstyles and explore the sense of aesthetics in Japanese culture.

再発見する 日本髪の美

着物を着て、髪を結う。

和の装いは、ふだん洋服を着て生活をしている私たちにとって特別なおしゃれ。

七五三、成人式、結婚式などの通過儀礼や、初詣といった行事で着物を着ることはあっても、髪型まで日本髪に結う機会はなかなかありません。

でも、着物を粹に着こなして、日本髪をスッキリ結い上げた姿はとても綺麗。

日本らしい美しさを感じます。中には「一生に一度は日本髪を結ってみたい」と、密かに思っている人もいるのでは？

身近なものではなくなった今だからこそ、

日本髪の美しさが持つ「特別感」に憧れるのかもしれませんが。

日本髪は、江戸時代に花開いた日本独自のヘアスタイル。

日本に根付く美意識や伝統美がぎゅっと凝縮されています。

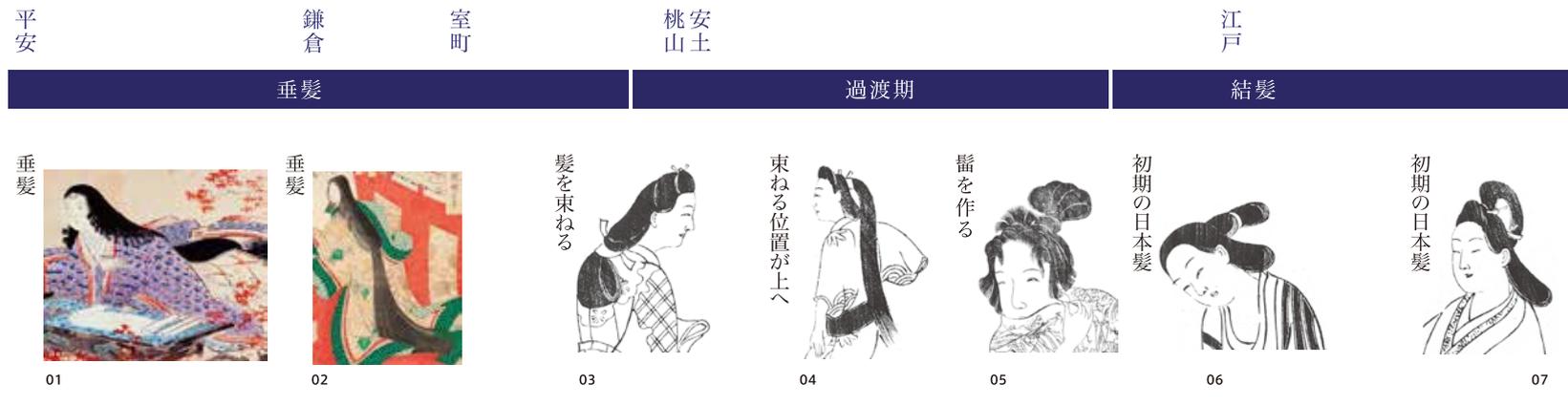
日本髪に感じる「美しさ」とは何か？

日本髪の美を再発見しながら、日本文化の美意識にふれてみましょう。

The Advent of Nihongami

Nihongami originated in the 16th century Azuchi-Momoyama period, when women's long hair was tied at the back of the head like a ponytail so that they could be more active, compared to the long flowing hair that had previously been customary for centuries. The practice of putting one's hair up gradually evolved into complicated and decorative forms. Subsequently, hundreds of hairstyles were created in the Edo period (17th to mid-19th century).

1 日本髪へのあゆみ



垂らした髪から、結い上げた髪へ

いわゆる日本髪の歴史は、安土桃山時代に始まります。それよりも前、平安時代から室町時代までの約700年間、女性たちは長い髪を後ろに垂らした「垂髪」にしていました。イメージするなら、源氏物語絵巻に登場する貴族女性の髪型。丈なす黒髪は、優雅な女性美の象徴でした。貴族社会から武家社会へと時代が進み戦乱の世になると、庶民の女性たちは、活動しやすいように長い髪を束ね始めます。その代表が、今のポニーテールに似た「下げ髪」や、背で丸めた「玉結び」です。さらに、ファッションリーダーの遊女や女歌舞伎などが、安土桃山時代の終わり頃に始

めたのが、頭上に結った髪を折り曲げて髷にした「唐輪髷」という髪型。この唐輪髷が日本髪の原型といわれるのは、「髷の誕生」があったからです。

- 01. 垂髪の貴族女性 / 「中古諸名家美人鏡 後編11巻 紫式部」
- 02. 垂髪にした武家の女性 / 「豊太閤観桜之図」楊洲周延 明治30年
- 03. 庶民の女性たちが髪を束ね始める / 「近世女風俗考」生川春明著 明治28年
- 04. 髪を束ねる位置が上へ / 「近世女風俗考」生川春明著 明治28年
- 05. 束ねた髪を折り曲げて髷を作るようになる / 「歴世女装考 秋」岩瀬百樹撰 弘化4年
- 06. 初期の日本髪 (兵庫髷の古図) / 「近世女風俗考」生川春明著 明治28年
- 07. 初期の日本髪 (勝山髷の古図) / 「近世女風俗考」生川春明著 明治28年



- 08. 垂髪から結髪への過渡期にある下げ髪や玉結び / 「湯女図」江戸時代(17世紀) MOA美術館
- 09. 着物や帯とあわせて日本髪も華やかに / 「江戸名所百人美女 いひ田まち」三代歌川豊国 安政5年
- 10. 複雑で装飾的な日本髪 / 「美艶仙女香」溪斎英泉 文化12~天保13年

09

髷ひとつから、複雑な髪型への進化

江戸時代は治世が安定したことで経済が発展し、文化も発達しました。着物や帯など、服装が華美になっていくと、それと合わせるように髪型も複雑で装飾的なものへと進化していきます。

髪を一つに束ねることから始まった日本髪は、やがて髪をいくつかのパートに分けて結い上げるようになります。すると髪型は立体的な構造になり、全方向の立体美が追い求められていきました。結髪技術の向上とともに髪型のバリエーションは飛躍的に増え、江戸時代に生み出された日本髪の種類は数百ともいわれています。

作りあげられた黒髪之美

垂髪から結髪に変わっても、変わらないのは「長い黒髪=美しい」という美意識。垂髪が黒髪之美を前面に押し出した「素材美」だとすれば、結髪は徹底的に作りこむことで黒髪之美を際立たせた「造形美」といえます。実用から始まった日本髪は、結い上げた黒髪之美を追求した結果、世界に類を見ない結髪文化=黒髪の様式美として完成しました。



10

日本髪とは？

広くは日本在来の髪型を総称するものですが、ここでは主に江戸時代の結髪技術を用いた女性の髪型を指しています。江戸時代には「〇〇髷」などと呼ばれていましたが、明治時代に洋髪が流入してきて以降差別化のために「日本髪」の呼称が使われるようになったと考えられています。

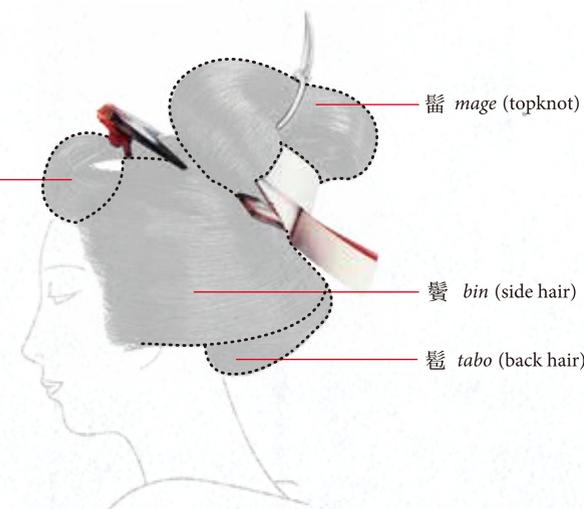
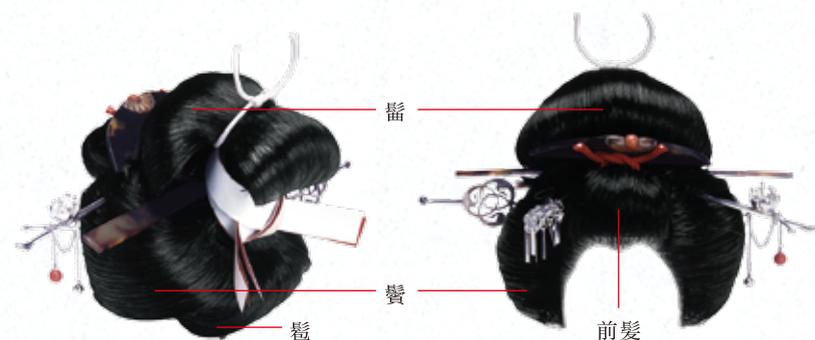
Basic Facts of Nihongami

The *nihongami* is made up of four elements: *maegami* (front hair), *bin* (side hair), *tabo* (back hair), and *mage* (topknot). These are formed by the hair being divided into four parts which surround a central section secured at its root, while each section is tied to the bound root of the central part one by one. Many types of *nihongami* were created by combining elements of different size and shape.

2 知っておきたい！ 日本髪 の 基礎知識

日本髪の4つのパート

日本髪は前髪、鬢、髷、髻という4つのパートに分けられます。例えば髪型が違って、髪をパートごとにブロッキングし、最初に結んだ髪の根元に集めるように結び上げていくという手順は同じ。多彩な髪型も、実はそれぞれのパートの大きさや形の組み合わせでできています。



前髪・・・フロント部分
 髻・・・束ねた髪を折り曲げた部分
 髷・・・両サイド部分
 髻・・・後頭部から襟足部分。「つと」ともいう。



かもめ
髻

01



せせり
髻

02



とうろう
髻

03



特徴的な髷と髻

初期の日本髪は髻の形でバリエーションが分かれていましたが、しだいに髷や髻が特徴的な髪型が登場します。元禄頃(1688~1704)に流行したのが、「かもめ」という髪型。髻が後方の下へと突き出した形がカモメの尾羽に似ていることから名づけられました。明和頃(1764~1772)になると、襟を汚さないようにするため、「髻指し」という道具を使って髻を上にはね上げるようになります。その格好が

セキレイの尾羽に似ていたため、「鶴髻」と呼ばれました。江戸時代の中頃になると、飛び出していた髻は短くなり、代わりに髷が大きくなります。その極致が、寛政頃(1789~1801)に流行した「燈籠髷」です。髷を燈籠の笠のように左右に大きく張り出し、向こう側が透けて見えるほど薄くした繊細な髪型。「髷張り」という、半円形をした針金のようなものを髷の中に通し、きれいな髷の形をキープする工夫をしていました。



女の子の髪型

日本髪には、12~3歳頃までの女の子特有の髪型があります。時代劇でもよく見る「稚児髻」と「桃割れ」がまさにこれ。稚児髻は頭上に二つの輪をつくり、髪先を根元に巻きつけます。前髪も髷も髻もきゅっと小ぶりで、愛らしい髪型。桃割れは、髻を丸く整えて後ろを割り、根元に巻きつけた手絡という布製の髪飾りをのぞかせます。少女の髪型は大人よりも全体的に小さめに、そのぶん髪飾りは少し派手なくらいに。年齢による髪型のルールがあったからこそ生まれた、期間限定のおしゃれといえそうです。



04



05

01~05.「時代かがみ」楊洲周延 明治29~30年

Basic Hairstyles and Their Variations

There are four basic types of *nihongami*, the Hyōgo-*mage*, Shimada-*mage*, Katsuyama-*mage*, and *kōgai-*mage**. Each is characterized by the shape of its *mage* (topknot).

3 基本の髪型とバリエーション

日本髪には4つの基本型があります。見分けるポイントは「*髷*の形」。基本となる兵庫髷、島田髷、勝山髷、笄髷の特徴とバリエーションを、*髷*に注目しながら見てみましょう。

01.03~06.08.「時代かがみ」楊洲周延 明治29~30年
02.「婦人風俗三十二相」芳年 明治21年
07.「婦人諸禮髷之内 婚禮」一勇齋国芳 弘化頃

ひょうごまげ 兵庫髷 Hyōgo-*mage* 頭の上に縦型の髷

日本髪の原型といわれる唐輪髷から発展したもので、頭頂部にまとめた髪で縦型の髷をつくり、毛先を根元に巻きつけます。一度下火になりますが、髷を横に倒して両輪にした「横兵庫」として再登場し、遊女特有の髪型として発展しました。



01



兵庫髷



02



横兵庫

しまだまげ 島田髷 Shimada-*mage* 折り曲げて結んだ髷

若衆歌舞伎の美少年たちが結っていた若衆髷を、東海道島田宿の遊女が真似て始まったとされ、髷を折り曲げて途中を結んでいるのが特徴です。未婚女性の髪型の定番で、花嫁の髪型として知られる「文金高島田」もこの系統に入ります。



03



島田髷



04



奴島田

かつやままげ 勝山髷 Katsuyama-*mage* 輪っか状の丸い髷

髷を前に折り曲げて輪をつくり、根に白元結をかけた武家風の髪型。吉原の遊女勝山が結い始めたといわれています。遊女から若い娘、さらに武家や町家の妻女へと広がっていきました。細かった髷がしだいに丸くなり、既婚女性の代表的な髪型「丸髷」に発展しました。



05



勝山髷



06



丸髷

こうがいまげ 笄髷 *kōgai-*mage** 笄にからませた髷

垂髪が正式とされた宮廷女官や御殿女中が、私的な場で下げ髪を笄に巻きつけたことに始まり、笄を外せば垂髪に戻るのが特徴です。基本型の中では唯一、上流階級から一般の女性に広がった髪型。勝山髷に応用した「両輪髷」や、御殿女中の代名詞とされる「片はづし」などが派生しました。



07



両輪髷



08



片はづし

Hair Ornaments Adorning the *Nihongami*

Although *kushi* (combs), *kanzashi* (hairpins), and *kôgai* (hair sticks) were originally functional, they developed into hair ornaments during the Edo period. As indispensable items of high fashion, they sometimes reflected the wearer's flamboyance and pride, while also symbolizing their status.

4

日本髪を彩る 髪飾り



「浮世四十八癖 なんでもほしがるハ苦なしの癖」溪斎英泉 文政中頃

道具からアクセサリへ、華麗なる変身

日本髪の見ええをワンランクアップさせるのは髪飾り。その代表格が櫛、簪、笄です。

櫛はそもそも髪を「梳く」ための道具。初めは梳き櫛をそのまま髪に挿す程度だったのが、着物や帯が華やかさを増した元禄頃にはアクセサリ化し、様々なデザインの飾り櫛が作られるようになりました。

同じように、簪は髪を「留める」ヘアピン、笄は髪を「かき分ける」「巻きつける」ヘアスティックとして使われていた道具。それが実用品から装飾品へと役割を変え、ヘアアクセサリ

として著しく発達しました。

江戸時代の女性にとって櫛、簪、笄は、現代の指輪、ネックレス、イヤリングのようなもの。ひとつ上のおしゃれに欠かさないファッションアイテムであり、時には見栄や自慢、さらにはステータスの象徴でもありました。



斑入り鼈甲製櫛、簪、笄 江戸時代後期



01.03~05. 玉簪 江戸時代末期
02. 桜紋簪
06. 平打ち簪
07. 菊花簪

08. 桃割れの少女 福を集めるという縁起のいい蝙蝠の簪／「当勢三十二想 放してやりた相」一鶯斎国周 明治2年
09. 丸顔の若い人妻／「江戸名所百人美女 堀の内祖師堂」三代歌川豊国 安政4年
10. 島田髷の大名家の姫君 桜のびらびら簪に鼈甲の櫛と簪／「江戸名所百人美女 霞ヶ関」三代歌川豊国 安政4年
11. 奴島田の若い娘 ふくら雀の簪、大きな鳥の飾りがついた簪／「当勢三十二想 飾つて見た相」一鶯斎国周 明治2年
12. 天神髷の遊女／「当勢三十二想 雲がかかり相」一鶯斎国周 明治2年

憧れの一品あり、人気のデザインあり

髪飾りの材質は金、銀、象牙、真鍮、貝などバラエティ豊か。中でも江戸女性の憧れの的だったのが鼈甲です。特に斑が入っていない無地のは最高級品。まるでダイヤモンドのような存在でした。高価な鼈甲は庶民の女性にとっては高嶺の花。せめて似たものでもと登場したのが、「似たりの櫛」です。牛や馬の爪で作ったイミテーションですが、気分だけでもという気持ちはわかります。江戸時代後期には「びらびら簪」の流行もありました。簪の先に鎖の飾りが付いていて、歩く度に揺れる派手なデザイン。こちらは高価なものというより、カワイイもの好きの若い女性たちに大人気。流行は京や大坂にも広がっています。



牡丹珊瑚飾りびらびら簪 江戸時代後期

日本髪には欠かせないもの

手の込んだ細工や工夫を凝らしたデザインで、花鳥風月や四季折々の風物を表現した髪飾りは、日本の伝統美を凝縮した芸術品です。櫛ひとつとっても、工芸作品として鑑賞することができます。ですが髪に挿してみると、髪の色、日本髪の特徴が引き立ち、ひとときその輝きが増して見えます。

髪にアクセントとなる彩りを加えたり、あるいはキリッと引き締めたり。日本髪は、艶やかな黒髪と立体的な造形に、髪飾りの華やかな装飾が加わることで完成します。「黒髪」というすばらしい素材に、「結う」という巧みな調理をほどこし、最後に「髪飾り」で味付けする。美味しい和食ならぬ、美しい日本髪には三位一体の法則が隠されていました。

What do Hairstyles Tell us?

In Edo period Japan, people's hairstyle and clothing was severely circumscribed according to their social status. There were actually many rules depending on their age, stage in life, and occupation. In fact, their hairstyle was an indication of who they were.

5 髪型からわかること

髪型は、好きにはできなかった

江戸時代は身分社会。身分によって髪型や服装が厳しく規制されていました。さらに年齢やライフステージ、職業によっても多くの決まりごとがあり、好きな髪型を自由に選べたわけではありません。いいかえれば、髪型や服装を見ただけで、その人がどのような人物なのかわかってしまうということ。まるで身分証を首から下げて街中を歩いているようなものです。プライバシーに配慮する現代の女性には、「信じられない!」ことではないでしょうか。

三美人をプロファイリングしてみる

浮世絵に描かれた三美人を順番に見てみましょう。

左の女性が結っているのは**笄鬢**。既婚女性に好まれた髪型です。口元には、既婚女性のしるしであるお歯黒がのぞいています。右手に煙管を持った姿は、「町家の女房」といった雰囲気です。

華やかな着物が目をひく真ん中の女性は、**髷**の途中をしぼり、未婚女性の**定番島田髷**にしています。大きなふくら雀がついた**簪**も豪華ですね。胸元からは箱迫の鎖が見えています。箱迫は武家の女性が用いた箱型の小物入れ。この女性は「武家の、嫁入り前の若い娘」といえそうです。

右の女性の髪型は**つぶし島田**。芸者などの**粹筋**が結った髪型です。黒地の着物は、ほおずき柄にくくり猿の紋が入っています。足元に見えている中着にもほおずきが描かれ、トータルコーディネートといったところ。角だしに結んだ**帯**も格好よく、「粋な芸者さん」です。

社会ルールの中でのおしゃれ

女性の髪型、加えて化粧や服装も合わせて見てみると、未婚・既婚の別や年齢、身分に職業まで、驚くほどたくさんのがわかります。江戸時代のファッションは、おしゃれをして楽しむというだけのもではなく、人々が個人の身元を

判断するための目印でもあったのです。たとえ厳しいルールがあっても「少しでも美しく見せたい」と願い、「より美しい髪型」を追求し続けた江戸女性の心意気と創意工夫が、あれほどの日本髪の発達をもたらしたのかも知れません。



「江戸初姫」歌川豊国 安政元年

The Most Lavish Nihongami

It was courtesans, however, who had the most flamboyant hairstyles during the Edo period. Their hair ornaments alone weighed as much as 6 kg! Courtesans rated each other, and wore sumptuous kimono and hairstyles as a way of showing off their high status.

6

最も豪華な日本髪

遊女の髪型

髪型から身分がわかってしまった江戸時代。現代の私たちが見ても、すぐ見分けがつかぬのは遊女です。言ってみれば、そのくらい派手。武家の上品な華やかさとは違う、競うような豪華さがあります。

上級遊女特有の髪型として有名なのは横兵庫です。もともとは髷を高く輪にした兵庫髷から発達した髪型で、はじめに髷が横に倒れて両輪になり、しだいに髷が大きくなって、羽を広げた蝶のような形になりました。



「当勢三十二想 手があり相」一鶯斎国周 明治2年



粋な江戸、艶やかな京

江戸吉原と並ぶ遊郭が、京の島原でした。

島原の遊女が結う横兵庫は、髷に鹿の子をかけ花櫛、花簪、長崎とよばれる珊瑚のびらびら簪など、黒髪が見えなくなるほど髪飾りを挿しています。重さは髪飾りだけでなんと6kg。日本髪の中でも最も豪華な髪型です。「伊達兵庫」とも

「立兵庫」とも呼ばれました。

江戸吉原では、蝶のように結び上げた黒髪に、高級アクセサリ一の斑なし鼈甲の髪飾りを挿して粋に。京の島原では飾り立てて艶やかに。江戸と京の横兵庫を見比べてみると、美意識の違いがわかります。

「凄み」を秘めた髪型

遊女にとって、着飾ることは単なるおしゃれではありません。互いを格付けしあい、さらにはステータスの高さを誇示するための手段として着飾ったのです。横兵庫は遊女の中でも高位の花魁が結ったもの。

贅沢な髪飾りは地位の高さのしるしです。

一見して豪華な髪型、しかしそれは、遊女として生きていく覚悟を持った女性の「凄み」が秘められた豪華さです。

「新吉原江戸町 玉屋内朝妻・花紫・誰袖」歌川豊国 文政10年

The Profession of 'Onna-kamiyui' (Female Hairdressers)

As increasingly elaborate hairstyles were created, it became harder for women to fix their own hair. As a result *onna-kamiyui*, or female hairdressers specializing in women's hairdos came into existence, in addition to the practice of visiting their customers and doing hairstyles which the customers requested.

7

“女髪結い”という仕事

女髪結いの登場

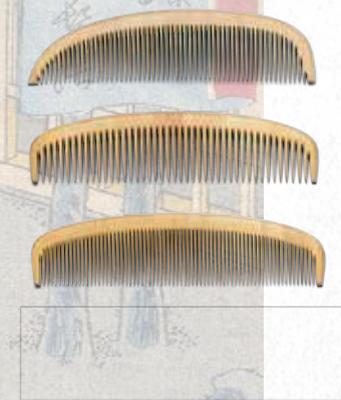
江戸時代の初め頃まで、女性たちは自分で髪を結っていました。髪結床(今でいう理髪店)は男性専用、髪結い(理容師)自身も男性でした。しかし江戸時代も半ば、安永頃(1772~1781)になると、自分一人の手には負えないほど髪型が複雑に。そこで登場したのが結髪専門の女性美容師「女髪結い」です。当初の顧客は遊女や芸者だったのが、やがて一般の女性も女髪結いを利用するようになっていきました。超絶技巧ともいえる髪型は、女髪結いの高いテクニックに支えられていたのです。

女髪結いの商売の仕方

女髪結いは店を持たず、顧客の所へ行ってオーダー通りの髪型に結う商売。料金は1回あたり200文でした。男性の髪結床が32文だった時代に、女髪結いは贅沢なおしゃれ。華やかな風潮を嫌った幕府は、度々禁止しました。しかし禁令下においても、女髪結いは増え続けるばかり。流行の髪型にしたい女髪結いを頼む女性と、自分の腕一本で稼ぎたい女髪結い。髪にける江戸女性の情熱には、幕府も敵わなかったのです。



女髪結いが島田髷の仕上げをしている。横には元結、後ろには髷や髷付け油が置いてある
 『女性三十六貴賤 東京高名女髪結』国貞
 明治元~4年頃



結髪用の黄楊樹

髪結いの道具

ワックスやヘアスプレーはおろか、ヘアゴムもなかった江戸時代、女髪結いはどんな道具を使って髪を結っていたのでしょうか。
 まず結髪に欠かせない道具が、櫛と「元結」です。櫛は髪を梳くのはもちろんのこと、ブロッキングしたり毛流れを整えたりと、用途に合わせて様々な形のものが使われました。元結は、紙をこよりにして糊を付けたもの。水をつけて結ぶと、糊がくっついてゆるまなくなります。ブロッキングした髪をまとめる度に元結できつく縛ることで、髪型がかっちり仕上がりました。
 髪型をより崩れにくくしていたのが「髷付け油」。今でいうヘアワックスです。髪に油分を与えてまとまりやすく、さらに仕上げた髪型をキープする整髪料としても重宝されました。髷の根元を元結でぎゅっと結び、髪を髷付け油でがっちり固めることで、美しく崩れにくい日本髪が完成します。



左から元結(黒・白)、髷りばさみ、髷付け油、梳き櫛

Nihongami Culture is Still Alive Today

Although Japanese women no longer make use of traditional *nihongami* every day, they still have an innate sense of aesthetics whereby they feel that lustrous black hair is beautiful and that putting one's hair up goes well with wearing a kimono. There are also hairdressers who pass down hairdressing techniques that originated in the Edo period and are still being used today. The culture of *nihongami* that embodies the distinctive Japanese sense of beauty is surely still alive in both form and mind.



01 明治の日本髪 02 束髪



今も息づく日本髪の文化

日本髪は今、私たちにとって身近ではありません。舞妓さんなどごく一部の女性の装いや、結婚式などハレの日に結う特別な髪型。

ですが、日本髪の文化が消えてしまったわけではありません。艶やかな黒髪をキレイと感じたり、着物には結った髪が似合うと感じたり。ふだんの何気ない思いの中に、日本髪の美意識はひそんでいます。また伝統の結髪技術を今に伝える結髪師が観客の前で髪を結び上げる結髪実演には、毎回たくさんの方が訪れ、見入っています。現代女性も、特別な日には日本髪を結ってみたいと思うのは日本髪の美しさを感じるDNAのようなものが受け継がれているからではないでしょうか。

日本髪には、艶やかな黒髪と巧みな技が織りなす美があります。それは日本在来の髪型というだけにとどまらない、日本の伝統美や日本人の美意識をあらわす、まさに日本文化です。日常的に日本髪を結わなくなった今でも、日本らしい美しさを秘めた日本髪の文化は、私たちの心象として、たしかに息づいています。



8

日本髪の“いま”

日本髪から束髪へ、近代化への一歩

時代が明治になると、日本髪を取り巻く状況は一変しました。文明開化が叫ばれる中、日本髪の非合理性が指摘され、代わりとなる新ヘアスタイル「束髪」の奨励運動が起こったのです。日本髪より軽く、簡単に結うことができる束髪は、社会進出した女性のニーズにも合い、しだいに取り入れられていきました。

大正10年頃になると、束髪から発展し、髪にウェーブをつけて耳を覆うようにまとめた「耳かくし」などの洋髪が流行します。和服にも洋服にも似合い、それまでにないモダンな雰囲気、多くの女性たちの心をつかみました。さらに進んだ髪型が「断髪」、今でいうボブスタイルです。「長い黒髪＝美しい」とされた日本では、髪を短く切ること自体、女性にとって初めてのことでした。断髪は、モダン・ガール(モガ)と呼ばれたトレンドの最先端をゆく女性たちから広まっていきました。

日本髪から束髪、洋髪、そして断髪へ。女性の髪型の変化は、社会慣習から自己表現へと、髪型に対する意識の変化でもありました。



断髪
05

03 七三耳かくし 04 耳かくし



- 01. 日本髪／美人絵はがき(赤坂の萬龍)明治時代
- 02. 束髪／美人絵はがき(新橋の栄龍)明治時代
- 03. 七三耳かくし／
『どなたにもわかる洋髪の結び方と四季のお化粧』
早見君子著 資文堂 昭和3年
- 04. 耳かくし／神戸市青山写真館
- 05. 断髪／『婦人画報』昭和5年



「婦人たしなみ草」香蝶楼貞貞 弘化4年

ヘアスタイリング篇

朝、きれいに髪をセットするのに、気づいたらヘアスタイルが崩れていてがっかり・・・とはよくある悩み。今よりずっと複雑な日本髪、江戸女性はとやがってキープしていたのでしょうか？

まずは「鬻水」。今でいうヘアウォーターです。つる性植物のサネカズラの茎を刻み、水に浸して粘り気を抽出したものです。鬻水をつけてしっとり潤った髪は、まとめ髪に最適！

スタイリングには「髪油」。こちらはヘアオイルやワックスといったところ。「コマヤクルミ、椿などの油が使われていましたが、すぐれたホルド力を発揮したのは「鬻付け油」です。蠟に松脂を混ぜたもので、もとは武士が髭を整えるために使っていました。

鬻水や髪油を入れていた容器にも注目です！ 花柄や和文様など、かわいらしいデザインは女性好み。化粧台に並べて置いたら気分も上がりそうですよね。



油壺



鬻水入れ



「江戸名所百人美女 今川はし」三代歌川豊国 安政5年

ヘアケア篇

突然ですが、皆さんは毎日髪を洗いますか？

江戸時代は毎日お風呂に入る習慣がなく、髪を洗うのはなんと月に1〜2回だったとか。そう聞いただけで頭がかゆくなつてきそうです。

これは女性の洗髪シーンを描いた浮世絵。上半身裸で、大きな金盥に張った水に髪をひたし、櫛でほぐしながら洗っています。髪油でガチガチの髪をほぐすのは時間がかかりそう。洗髪が半日かかりの大仕事だったというのもうなずけます。

シャンプーの代わりをしていたのは「布海苔」というどん粉と小麦粉？と思えますが、使い方は意外と簡単。布海苔を熱いお湯に溶かしてうどん粉をプラス。髪にすりつけてよくもみこみ、熱いお湯ですすぐとさっぱり！最後に水で洗っておしまいです。

髪についた油や臭いがきれいに落ちるだけでなく、髪にツヤも出たとか。自然素材で髪にも良いなんて、まさに今人気のオーガニックシャンプーですね。



うどん粉(左)
布海苔(中)
布海苔とうどん粉をお湯に溶かしたものの(右)

江戸時代ならではのお手入れ篇

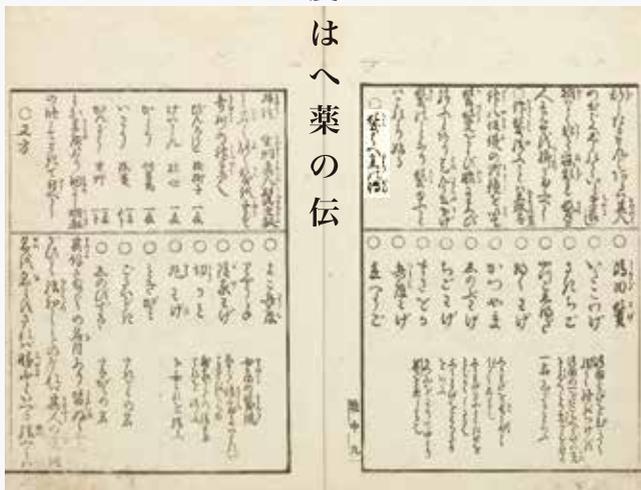
江戸美人のバイブル、『都風俗化粧伝』は江戸後期に出された総合美容読本。その中で、ちよっと変わった髪のお手入れを見つけた。

まずは虱を取り去る方法。銅や水銀でできた専用薬に加え、大風子油(東南アジア産の高木の種子油)、辰砂(硫化水銀)を酢に溶いた汁、鳥頭(トリカブトの根)をつけた水なども効果があるそう。これは月に数回しか洗髪できなかった時代だからこそ必要なヘアケアですね。

変わり種は「髪はへ薬の伝」。ハンドメイドの育毛剤です。数種類の薬草をコマ油で溶いて地肌に塗るといふもの。続きにはなんと「指に付いてしまつと指に毛が生えるので、ヘラで塗ること」という注意書きが！ 怖いぐらいの効き目です。日本髪は髪をぎゅっと結ぶため、強く引っぱられる鬚の根元部分の髪はがけてしまつ女性も少なくなつたとか。

艶のある健康的な黒髪は、江戸美人の第一条件。美髪を手に入れるため、江戸の女性たちもいろいろな苦勞をしていたようです。

髪はへ薬の伝



「都風俗化粧伝」佐山半七丸著 速水春暁斎画図 文化10年



「都風俗化粧伝」佐山半七丸著 速水春暁斎画図 文化10年

コラム 江戸女性の美髪の3つのヒミツ



ポーラ文化研究所について

ポーラ文化研究所は1976年の設立以来「化粧・女性・美意識」をキーワードに、古今東西の化粧史、時代風俗、美人観、化粧法、化粧道具、化粧意識など化粧に関わる幅広い分野を対象に研究を行っています。これまでに化粧道具や装身具を約6,500点収集、稀覯書などの文献資料も多数収集してきました。研究活動で得た成果は、出版物やウェブサイト、展覧会などで情報発信しています。



橘屋早致散壽繪婚乳化粧道具
江戸時代後期



女性像入り化粧セット 1920~1930年代頃



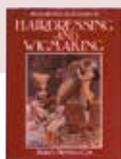
西洋化粧道具箱 19世紀



「化粧創作口伝」 宝永5年

ポーラ化粧文化情報センター

化粧文化の専門図書館として、図書約12,000冊、雑誌約4,000冊を無料公開しています。化粧文化に関する情報サロンとして、どなたでもお気軽にご利用いただけます。



「化粧術とかつら制作の図解事典」
J.Sコックス著 1966年



「レイイチ16世紀の奇抜な姿」
O.ユザース著 1895年



「都風俗化粧伝」佐山半七丸著
速水春曉清画 文化10年



「容顔美艶考」並木正三遺傳
浅野高造補著 天保9年



「歴世女装考」春
岩瀬百樹撰 弘化4年

レファレンスサービス

「江戸時代の髪型について」「アイメイクの歴史」など、化粧文化に関する質問にお答えし、資料の探し方、最適な資料のご案内を行っています。化粧文化の専門図書館として、図書約12,000冊を所蔵



ミニ展示

ポーラ文化研究所が所蔵する化粧道具や書籍などを紹介するミニ展示「歴史のなかのよそおい」を随時開催。開館中にご自由にご覧いただけます。ミニ展示「歴史のなかのよそおい」



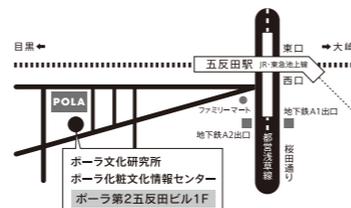
ご利用案内

開館日 毎週水曜日 開館時間 10:30~17:00

所在地 〒141-0031 東京都品川区西五反田2-2-10 ポーラ第2五反田ビル1Fポーラ文化研究所内

交通アクセス・JR山手線五反田駅西口より徒歩3分・都営浅草線五反田駅A2出口より徒歩3分

・東急池上線五反田駅より徒歩5分



出版物のご案内

ポーラ文化研究所では化粧、髪型、よそおいの文化についてわかりやすくご紹介する書籍を多数刊行しています。

浮世絵に見る江戸美人のよそおい

江戸時代の化粧風俗がわかる浮世絵版画を77点掲載。DVD版では浮世絵を高画質ズーム拡大でお楽しみいただけます。



書籍 定価(本体3,300円+税)



DVD 定価(本体1,500円+税)

結うころー日本髪的美しさその型

結髪の再現をはじめ、江戸から明治期にかけて流行した日本髪スタイル64点を紹介。初版から10余年を経ても需要の絶えないロングセラー本です。



書籍 定価(本体2,500円+税)



CD 定価(本体762円+税)

ご注文方法

メール、電話、FAXにてご注文をお受けしております。ご希望のタイトル、数量、ご住所、お名前、電話番号を下記のいずれかにご連絡ください。出版案内(注文書付き)もございますので、お気軽にお問い合わせください。

ご注文アドレス: infobunken@po-holdings.co.jp

電話番号: 03-3494-7250 (受付: 月~全曜日 10:00~18:00) FAX: 03-3494-7294

*ポーラ文化研究所の出版物は全国の書店でもお求めになれます。店頭がない場合は「地方小出版流通センター扱い」で書店にご注文ください。

ウェブサイトのご案内

<https://cosmetic-culture.po-holdings.co.jp>

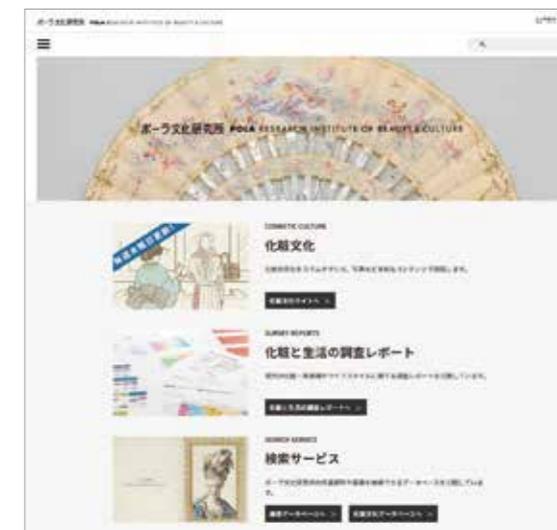
ポーラ文化研究所では、化粧の文化を多彩なコンテンツで発信しています。ウェブサイトの「化粧文化」は毎週木曜日更新。ぜひご覧ください。



化粧文化の連載コンテンツ

- コスメのある風景 レンズ越しに見るメイクシーン
- ウチの江戸美人 女子2人のルームシェアひとコママンガ
- みんなに聞きました! 調査から見える化粧意識
- お化粧ストーリー 古今東西のよそおいの文化
- もっと知りたい日本髪 日本の結髪文化の変遷

ポーラ文化研究所公式 SNS



ウェブサイトTOP